

合同教育研究会議（6月10日開催）議事概要

1 開催日時

令和2年6月10日（水）13:00～14:20

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、狩野副学長兼研究・地域連携本部長、堀江副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長、似鳥学生支援本部長、橋本企画本部長、劉国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、
亀田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、菊池盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、川崎生活科学科長、原国際文化学科長、大志田経営情報学科長、菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、
長谷川委員（学外委員：東北大学未来科学技術共同研究センター長）※web出席

（事務局）鈴木事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、鎌田学生支援室長、藤澤研究・地域連携室長、藤村企画室長、高橋宮古事務局長、八木主幹、鈴木主幹

4 会議の概要

議事録確認

前回会議5月13日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

- (1) 平成31（令和元）事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について（資料No.1）

橋本本部長から資料に基づき、県評価委員会に提出する平成31（令和元）事業年度に係る業務の実績に関する報告書の大学評価分析室の評価案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

鈴木学長から、各学部における評価の根拠付けと、スケジュールに沿った県の評価委員会の準備をしてほしいとの発言があった。

委員から、今年は2月、3月に新型コロナウイルス感染防止対策が必要になったことにより、事業が十分できなかったことも、不測の事態の発生という説明ができるので、県の評価委員会での質問や意見に対応できるようにまとめていただきたいとの発言があった。

藤村室長から、例年開催している評価委員会のヒアリング及び評価委員会は、今年度は開催せず、書面による手続によって替えるとの説明があった。

協議事項

なし

意見交換事項

(1) 遠隔授業から対面授業への切り替えに伴う「対応可能性」の把握

高嶋総合政策部長から、遠隔授業から対面授業への切り替えに伴う対応について意見交換の要望があった。

鈴木学長から、ほかの学部ではどうかとの問いかけがあり、これに対し、委員から、看護学部では、感染拡大の危険がゼロではない状況で学生を集めることへの不安や熱中症への不安の声があり、それを受けて看護学部では学部長から学生に対面授業に移行するにあたってのメールを発信するとともに、感染対策を改めて考え直したことについて発言があった、また、熱中症対策に関しては、個人個人ではやれることには限界があるので、感染症対策と熱中症予防は一緒に取り組んでいただきたいとの意見があった。

鈴木学長から、本学は第一段階から第四段階までの経済的支援の枠組みを準備しているので、学生に対し積極的に相談するよう周知すること、特に web ページを学生に対して丁寧に作成してほしいこと、学生が安心するのであれば、我々も BCP (Business Continuity Plan) を作る必要があることについて発言があり、これに対し、委員から、できるだけ本来の対面授業が望ましいが、大学として状況の変化に応じて対応しているという姿勢を明確にし、BCP に従い対応するというのであれば、BCP の作成に賛成であるとの意見があった。

鈴木学長から、第2波、第3波を考えると、BCP はあった方がよいとの発言があった。

委員から、緊急な状況で特に学生に対しての告知の仕方はもう少し丁寧でもよかったこと、BCP はそれを見て学生がある程度の予測可能性がつけられることも重要な要素であるとの意見があった。また、遠隔授業は外出自粛要請を前提としたもので、自粛要請が解かれている中では速やかに本来の対面授業に戻す必要があるということを共通認識とし、学生に丁寧に説明していくこと、経済的に困窮したという訴えがあれば、国や県の支援による給付金での対応すること、大学に出てこられない学生への授業に係る配慮を行っていくことについて、要望があった。

委員から、遠隔授業が対面授業にスムーズに戻ったところで、本学にふさわしい BCP の議論をしたいとの発言があった。

委員から、速やかに対面授業に戻す必要があるということを、共通認識とする方針と経緯を書面にして教員に伝えることについて要望があった。また、熱中症対策のための冷房強化では、特に共通講義棟の駐車場側は壁が熱を持つため、工夫することについて要望があり、これに対し、鈴木事務局次長から、BCP については、委員に相談しながら検討を進めること、冷房強化については、施設管理上できることは対応するとの回答があった。

関屋室長から、県外企業からフェイスシールド 500 個の寄付について説明があり、これは教職員に配り、加えて学生全員分のフェイスシールドを購入する方向で計画していること、フェイスシールドの使用の判断については教員の意見を聞きたいこと、教室の飛沫対策として各教室のパソコン操作卓の前にビニールシートの設置を計画していること、大教室の扇風機の風の音がうるさいとの指摘があるので、扇風機の増設も計画していること、100 人教室の不足については、共通棟 B 4 階の共同学習室を 110 人の定員とすることを検討していること、パソコン端末がある教室は、パソコンとパソコンの間に段ボールの仕切りを立てることを検討していることについて説明があった。

委員から、感染対策のほかに注意が必要なのが1年生へのサポートであり、各学部
の担任の対応もあるが、1年生は共通科目が多いので、共通科目の先生方には、学生
へねぎらいや今後の大学生活をこれから楽しむということが見通せるような言葉か
けと、共通科目で欠席が続く学生について学部への情報提供の依頼があり、これに対
し、委員から、1年生の授業の出欠状況は語学系が一番把握しやすいので、語学系の
教員には注意してもらいたいとの回答があった。

また、委員から、遠隔授業は外出自粛を前提として導入していることから、家に籠
ることのデメリットを考え対面授業に変えることを説明する必要があるとの発言が
あった。

鈴木学長から、学生には全学で決まったことを正しく伝えないと、大学内部での不
一致になるので注意をお願いするとの発言があった。また、言葉の使い方について、
文部科学省が面接授業という言葉を使っているが、放送大学用語であり本学には不適
当であることから、対面授業と統一して使ってはどうかとの提案があり、これに対し、
委員から、文部科学省用語の面接授業は通信教育用語であって、通信教育を補うため
の面接授業という意味があるので、対面授業と統一した方がよいとの意見があった。

また、委員から、フェイスシールド着用の義務付けについては、現時点で、マスク
の着用が厳密にいうと義務ではないが、ほぼ義務付けてられている状態であることを
考えると、マスクをフェイスシールドで代替できるようにならないかとの提案があり、
これに対して、委員から、フェイスシールドはマスクの代替品ではなく、目からの感
染を抑止するための飛沫抑止のためのものであり、教卓にビニールシートを張り、話
す人間をある程度隔離した状況を作っていただくのが教員の息切れ対策には一番役
に立つこと、フェイスシールドは吐息を下に落とすが基本的な飛沫抑止にはならない
ことを考えたうえで使う準備をしてほしいとの意見があった。また、これに対し、委
員から、現在 WHO が示している感染拡大地域とは違い、本学では感染拡大している状
況にはないことから、フェイスシールドの着用は感染防止対策の緩和策として、BCP
に規定してはどうかとの意見があった。

鈴木学長から、この会議で出た話をまとめて共通認識とし、学生にも周知をお願い
するとともに、これを機会に BCP を議論する機会にしてもらいたいとの発言があった。

委員から、現在、東京ではアルコールを提供する場で感染者数が増えていることか
ら、大学として当面の間、酒席を開く場合はサークル活動と同じ届出制にして管理し
ていただきたいとの要望があり、これに対し、鈴木学長から、この件に関しては、ま
とめて共有したいとの発言があった。

報告事項（口頭報告）

（1）令和元年度国際交流推進委員会の取組実績について（資料No.2）

石堂副学長から資料に基づき、令和元年度の国際交流事業の取組実績について報告
があった。

鈴木学長から、国連のアカデミックインパクトの web ページに掲載する新規の取組
のピックアップ作業をお願いしたいとの発言があった。

（2）教育の質向上に向けた教育課題検討部会の設置について（資料No.3）

猪股本部長から資料に基づき、教育の質向上に向けた教育課題検討部会を設置した
ことの報告及び各学部等に対し、部会メンバーの推薦及び協力について依頼があった。

(3) 新型コロナウイルスに関連した「何でも相談窓口」(ワンストップ相談窓口)の設置について(資料No.4)

似鳥本部長から資料に基づき、新型コロナウイルスに関連した「何でも相談窓口」の設置とその後の状況について報告があった。

(4) 新型コロナウイルス感染症拡大に係る経済的支援の方向性について(資料No.5)

鎌田室長から資料に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大に係る経済的な負担軽減策として本学既存制度を活用した支援の方向性について報告があった。

鈴木学長から、申請を迷う学生が申請について相談できる体制を、学生支援室において整えてほしいとの発言があった。

(5) 国の「学生支援緊急給付金」の運用及び本学の給付金制度の創設について(資料No.6)

鎌田室長から資料に基づき、国の「学生支援緊急給付金」の運用及び本学の給付金制度の創設について報告があった。

鈴木学長から、現在の緊急給付金の学内申請件数について質疑があり、これに対し、鎌田室長から、163件であるとの回答があった。

鈴木学長から、本学の支給要件は国の要件を緩和したものとなっているが、このことを学生に周知しているかとの質疑があり、これに対し、鎌田室長から、学生に周知し、併せて判断に迷う場合は、相談あるいは申請してほしい旨も周知する予定との回答があった。

鈴木学長から、各学部の教員からも学生に周知してほしいとの発言があった。

(6) 2019年度APRIN eラーニングの履修状況について(資料No.7)

狩野本部長から資料に基づき、教職員に履修を義務付けているAPRIN eラーニングの2019年度の履修状況について報告があった。

(7) 第三期中期計画期間における収支ギャップへの対応状況について(資料No.8)

鈴木事務局次長から資料に基づき、第三期中期計画期間における収支ギャップを解消する取組の5月末の状況について報告があった。

委員から、4月以降の土日勤務について、4時間未満の勤務であれば、今からでも超過勤務と振替を選択し直すことは可能かとの質疑があり、これに対し、鈴木事務局次長から可能である旨の回答があった。

報告事項(資料報告)

(1) 令和元年度のFD・SD参加状況について(資料No.9)

(2) 令和2年度前期授業に関する学生アンケートの中止について(資料No.10)

(3) 岩手県立大学ゲストハウスの利用状況について(資料No.11)

(4) 令和3年度入学者選抜日程変更に伴う滝沢キャンパス構内立入規制変更について(資料No.12)

(5) 令和2年度学生の定期健康診断の実施状況(資料No.13)

(6) 令和元年度における学生の健康管理・学生相談・特別支援の実績について(資料No.14)

(7) 学生への布マスクの配付について(資料No.15)

似鳥本部長から資料に基づき、新型コロナウイルス感染予防の一環として学生に対して布マスクを配布することとしたため、教員からも学生に周知してほしいとの依頼があった。加えて、マスク着用時の熱中症対策として、学生の受講中の水分補給を認

めることについて提案があった。

鈴木学長から、学生の受講中の水分補給について検討するとの発言があった。

- (8) 令和2年度全学研究支援費（学会等開催助成）の取扱いについて（資料No.16）
- (9) 令和元年度研究倫理審査委員会審査結果概要について（資料No.17）
- (10) 令和2年度地域協働研究追加公募について（資料No.18）
- (11) 北いわて・三陸地域活性化研究推進事業の実施について（資料No.19）
藤澤室長から資料に基づき、北いわて・三陸地域活性化研究推進事業と同地域の課題解決等を目的とした研究費制度の創設について説明があった。
学長から、北いわて・三陸地域に係る本学の取組一つひとつは小さいが、課題をまとめて申請してほしいとの発言があった。
- (12) 公開講座・滝沢キャンパス講座の開催中止について（資料No.20）
- (13) 本学が関係する各種講座の開催方針について（資料No.21）
- (14) 令和2年度安否確認システム報告訓練の実施について（滝沢キャンパス）（資料No.22）

その他

委員から、教職員のマスク着用について、各部局においても改めて徹底してほしいとの依頼があった。

委員から、新型コロナウイルスに関連した「何でも相談窓口」をうまく活用してほしいとの発言があった。

委員から、県内の産学官連携で往来の不便さによる地域間格差がある場合、オンライン型の地域の技術指導のモデル的なものを考えてみてはどうかとの提案があった。

鈴木学長から、その件に関しては5Gと絡めてオンライン型の何かに使えないか検討したいと考えているとの発言があった。